



ワクワク体験「ひらめき☆ときめきサイエンス」

昨日26日(日)に、熊本大学薬学部と連携した「ムラサキ(紫根)」で傷薬を作ろう」というプログラムが行われました。これは、本校のムラサキを使って、紫根入り軟膏作りに取り組んだり、植物の色素についてのお話を聞いたりするという内容です。

薬局で販売されている「紫雲膏(しうんこう)」をご存じてでしょうか?この薬の原料に「ムラサキ」が使われています。今回はムラサキの根の主成分シコニンの機能性について、熊大薬学部の先生方から学ぶことができました。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」は終日行われ、参加すると「未来博士号」という修了証書ももらえました。子供たちも学校の校花「ムラサキ」から薬を作るという体験に興味津々でした。参加した子供の感想です。「とても興味をもって参加できました。ムラサキの薬を持って帰った夜、カッターで手を切ってしまい、その薬を塗ったら治り、びっくりしました。『👁️帯西ブルー』の心を感じました。」「伸びた心は『👁️帯西グリーン』の『ともに生きる心』です。なぜなら実験をとおして、みんなで協力してすることができたからです。」等々子供たちの多くの声が寄せられました。

10月2日(日)にも同様の内容で行われる予定です(※受付は終了しました)。

「接遇」を学ぶ

本日26日(月)は、「接遇研修」を全職員参加して行いました。「接遇」というと、サービス業でお客様相手の正しい態度や言葉遣いでの対応と捉えられています。しかし、一般企業における接遇も学校現場における接遇でも基本は同じだと考えます。目の前の相手を尊重し心を込めて対応するということから接遇は始まるからです。そのことが、子ども、保護者とのコミュニケーションを円滑にし、職員間の連携もとりやすくなります。

今回は、外部から元 CA(キャビンアテンダント)の講師を招き、様々な接遇について学びました。電話対応の仕方などロールプレーしながら実践的に学ぶことができました。講師曰く「目の前にある相手に興味・関心をもち、敬意をもって接すること」が CA として学んだ接遇と述べられ、印象に残りました。

ただ、教職員は人を育てる仕事です。子供たち・保護者との対等なコミュニケーションややり取りが必要だと考えています。保護者の方々に対して、偉ぶるのではなく、若いからと自身を下に置くのではなく、教職員という立場で役割を果たすためにも、敬意をもって接することが大切だと考えます。そういう意味でも、今回の接遇研修は、今後生きてはたらくと考えています。

